

小児科医としてご家族に新型コロナウイルス (COVID-19) に関する情報と私の見解をお伝えする為に、流行の初期から第1報を3/9に、そして今日4/14に第5報を出します。テレビ、新聞もコロナウイルス関連の報道ばかりでもうたくさんと言われそうですが、ひと味違った情報を届けたいと思います。日本のみならず中国、アメリカ、イギリス、シンガポールなどの報道あるいは学術的な講義やカンファレンスを You Tube で視聴しました。

当院では健診、予防接種の時間枠を従来通り、さらに厳格に守って、風邪などの患者さんたちとの接触がないようにしています。またエレベーターに乗る際は家族ごとに乗って下さい。図書館も本屋も閉じているので当院では絵本を貸し出していますよ！子ども達も自分で絵本を選んで下さい。

- * 予防はしっかり手洗いすることであり、我々医療スタッフは当然ですが、受診する親御さん、子供達も手洗いを徹底しましょう。
- * 診察室、待合室はできる限り消毒します。複数の部屋、比較的広い待合室を利用して皆さんにはなるべく離れて座るようにお願いしています。
- * 心配なことは遠慮せずに相談してください。一緒に最善の策を考えましょう。

2019年12月初旬に武漢で発生した新型コロナウイルスはわずか3ヶ月のうちに世界中に拡がりました。12月8日に武漢の若いリー医師が未知のウイルス肺炎の発生 (outbreak) を始めてネット上に警告しましたが、治安を乱すものとして封印され、リー医師は警察に拘束されてしまいました。彼はその後コロナウイルスに罹患し亡くなりましたが、最初に流行に気がつき、警鐘を鳴らした勇気を武漢の人々は讃えています。しかしわずか2週間後に、新型コロナウイルスによる感染が急速に拡がりつつあることを中国政府は認めざるを得なくなりました。

武漢市の医療従事者の懸命な治療と流行阻止にも関わらず、市内で感染は急速に拡大していきました。3月9日に第1報を出した時点では感染者数は未だ中国がほとんどで、109,983人(死者は3805人)でした。3月9日の日本の感染者数は502人、死亡者数は7でした。3月13日にはWHOはついにPandemic(世界的大流行)と宣言しています。

ほぼ一ヶ月後の4月14日の現在、世界の感染者数は2,018,105人(3月9日に比べて18倍!)と、ついに200万人を超え、死亡者数は119,588人(3月9日に比べて31倍!)となっています。すでに数日前に武漢はほぼ2ヶ月にわたるLock downを部分的に介助したのが大々的に報道されています。中国はPCR検査が陽性でも無症状者は感染として統計に入れていません、しかも検査キットが非常に不正確である事が証明されており、検査結果自体が信用出来ません。中国政府の言論弾圧、そして不透明性は世界から批判されています。しかも中国は国内の新規感染者は0であると報告しています。4月14日の現在、中国の感染者数は以前と殆ど変わらず82,160人で死者数は3341人です。中国からの内部告発の映像もYouTubeには流れており、死亡数は少なくとも10倍以上であるとも言われています。Urn(骨壺)が数万単位で武漢に送られているという報道もあります。また中国人民も政府の発表を信用していないようです。世界中が情報開示を正確に行っているのですから、批判が高まるのも当然でしょう。COVID-19 virusが時にCCP(Chinese Communist Party) virusと呼ばれていることに気がつきましたか?世界が中国人に非はなく、しかし中央政府の人権無視の強権的対応を非難しているのです。何故か朝日新聞はそういった事を報道しません?今後米中そしてヨーロッパも巻き込んだ政治問題に発展する事も懸念されます。さらに大不況に世界が陥る事も大きな不安要素になっていますね。

悲惨な状況のニューヨークであっても3週間前にはわずかな患者数でした。人口過密都市である東京が例外であるはずは無く、数週間でニューヨーク状態になる可能性を検討すべきです。ニューヨークの状況分析する事は先輩の背中を見るごとくだと思いますので紹介します。10日前のニューヨーク、4月3日には患者数は92,381人、入院患者数は13,383人（陽性者の実に14%が入院）、ICU入院数は7,434人（入院患者の56%がICUで治療を受けている）、死亡数599人（4月5日のデータです）という状況でした（人工換気に移行した場合、離脱出来るのは20%との事!）。少しずれますが、4月3日の新規入院患者数は1427人であり、3月25日から4月3日まで連日の新規入院患者数は1000人を超えていました（ピークは4月2日で1294人でした）。この日を境に新規入院患者数は減少していき、4月11日にはわずか53人となっています。3月にはニューヨーク州知事Cuomo氏は精力的に陣頭指揮に立ち感染ピークを2週間後に想定し、呼吸器（何と4万台!）や病棟、ICU病棟の準備をしていました。ニューヨークの入院患者数は3月25日には326人だったのが、その後急激に増加していき4月3日頃から増加速度は鈍り、4月13日の18707人がピークとなっており、今後減少していくと予測されています。1日の新規ICU入院数や気管内挿管数も同様な傾向を示しています。しかしニューヨークでは4月6日から連日700人を超える人が死亡しており、11日迄の6日間で死者は4631人となっています。全ての面で、ニューヨークは最悪の局面を迎えています。希望の光も少しずつ見えてきているようです。

米国のようにスクリーニング検査を日本では行っていないので、実際の感染者数は不明です。東京では連日新規陽性者が500人を超え、最高記録を更新しています。4月7日夜に非常事態宣言が出されましたが、4月14日の日本の感染者数（無症候性も多く含む）は7688人、死者数は143人と欧米諸国に比べて未だ非常に少なく、増加スピードもゆっくりです。もしPCRテストスクリーニングを行って、現在の10倍の陽性者があるとすれば、7万人を超える事になり、そうなればニューヨークのように入院患者数は1万人を超え、死亡者数も9千人に達しますが、そのような状況にはなっていません。**希望的観測と言われるでしょうが、東京は1ヶ月遅れでニューヨークを追いかけないように思います。**ですから希望を持って今後一ヶ月の推移を注意深く見ていきましょう。コロナウイルスに対する抗体検査により、すでに感染したのかが解りますが、この検査法は簡易であり10分くらいで結果が分かります。米国ではこの方法で罹患した人の数を把握しようとしています。日本でもこの抗体検査を普及させる事により、例えば東京との感染状況が解り、対策を立て易くなるでしょう?**皆さん希望を持って、しばらく耐え忍びましょう。広い公園や散歩道に好天の時は連れ出し、淡い色の新緑を楽しんで下さい。**